

動きを高め合うことを通して、運動の 楽しさを味わわせる体育授業のあり方

大分県日出町立大神小学校

全校児童数	216名(男子110名 女子106名)		
全クラス数	9	教職員数	24名
体育専科教員訪問学校数			4校
訪問校	藤原小学校	豊岡小学校	日出小学校 川崎小学校
体育専科教員名		糸長 啓二	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◇体力状況調査の結果等から

- ・低い傾向にあった体力の向上（50m走、上体起こし、シャトルラン）

◇生活習慣調査等から

- ・朝食摂取率・運動に対する愛好度の向上

2 取組の計画

① 体育授業の充実

- ・運動好きな子どもの増加（技能、意欲、体力の向上）
- ・運動量の十分な確保、多様な運動経験、成功体験の蓄積

② 指導者の意識、指導力の向上

- ・体育授業の工夫改善や体力向上についての意識改革
- ・体力向上プランや一校一実践の組織的・継続的な取組

③ 体育環境の充実

- ・運動施設の整備や利用方法の工夫、体育倉庫や教材・教具の整理整頓
- ・意欲向上につながる校内掲示などによる運動の日常化、望ましい生活習慣の確立

Do：実践内容

1 体育授業の充実

- ① コロナ禍をふまえた体力回復のための運動の実施（「走」「跳」を中心としたサーキット型運動やハードル走）
- ② 密を避けながら取り組むための体育授業の考案、紹介、実施
- ③ 子どもが主体的に運動に取り組める空間や場の設定

2 指導者の意識、指導力の向上

- ① T1 となって授業を提示、また T2 としての専門的アドバイス
- ② 体力向上プランや一校一実践の作成の支援
- ③ 愛好度・朝食摂取率のアンケートの実施、町内体力向上推進委員会による各校の実践事例の情報交換
- ④ 各校からの1ヶ月の授業計画作成による授業内容の把握

3 体育環境の充実

- ① 運動場整備、体育館倉庫やラインの補修
- ② 体育用具の補充と整理整頓
- ③ 掲示の工夫による動きやポイントの可視化

●工夫したこと（&苦勞した点）

- ① 体育授業の充実、指導者の意識・指導力の向上
 - ICTの活用（ペア学習や班学習での学び合い、教え合い学習に活用・運動のポイントと振り返りの確認に活用）
- ② 指導者の意識、指導力の向上
 - TT指導によるきめ細やかで個に応じた効果的な指導と安全面の配慮に心がけた。
 - 授業のパターン化による見通しをもった学習と主体的な学習

○訪問授業：日出町内の小学校4校に基本毎週訪問

	月	火	水	木	金
	藤原小	豊岡小	大神小	日出小	川崎小
前期	午後 5, 6年		1日	午後 5, 6年	
後期	午前 1~4年			午前 1~4年	

○「日出町共通フォルダ」を活用した、データの共有化

③ 体育環境の充実

- 体育行事の実施による体力向上
- 異年齢集団を活用したなわとび集会
- 運動場の整備、体育館や体育倉庫の用具整理整頓、点検、補充
- 体育教具の作成

Check：取組の成果

① 体育授業の充実について

- コロナ禍での体力回復のために「走」「跳」を中心とした運動を屋内外において取り組み、自分のペースで意欲的に運動する姿が多く見られた。
- 個人で取り組む活動の授業においては、一斉に行う部分と自分で課題を持って運動に取り組む場や時間の設定を行うことで、子どもたちが積極的に取り組む姿が多く見られた。
- 授業をパターン化していくことにより、子どもたちが授業の流れを把握し、見通しをもって主体的に取り組む姿が多くなった。

② 指導者の意識、指導力の向上について

- 単元の評価の提示や評価する場面について指示、または場の設定や工夫の紹介をすることで、改善が見られてきた。
- 町内体力向上推進委員会をはじめ、各学校と情報交換・共有することにより取り組み方について示唆することができた。

③ 体育環境の充実について

- TT体制の指導により、きめ細やかな指導、また、場の設定（スムーズな用具の準備、片付け等）が図られている。

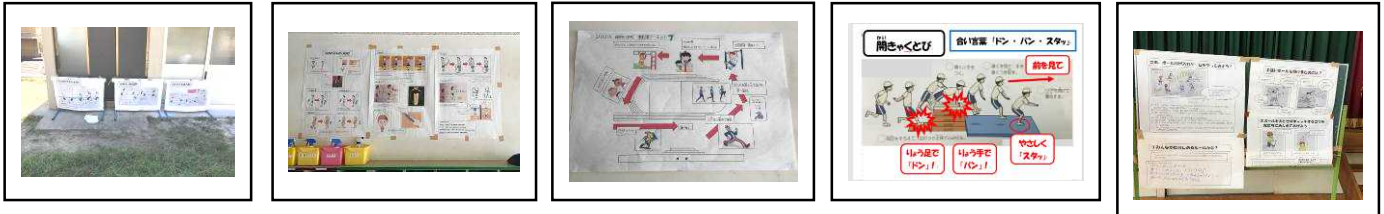
Action：今後の課題

- ① 訪問校との連絡が不十分で、指導者がどのような力を身に付けさせたいのかを共通理解する場が持てなかった。単元計画や評価計画、運動の系統性など、授業を計画的に実施できるようにすることが大切であると感じる。そのためにも単元計画や運動の系統性など、さらに情報発信し共有していくことが今後の課題である。
- ② 感染防止に細心の注意を払いながらも、今後どのような運動ができるのかを再度検討し、再編成していく必要がある。
- ③ TT指導の効果的な指導、役割分担のあり方はどうあるべきかを今後も工夫していかなければいけない。

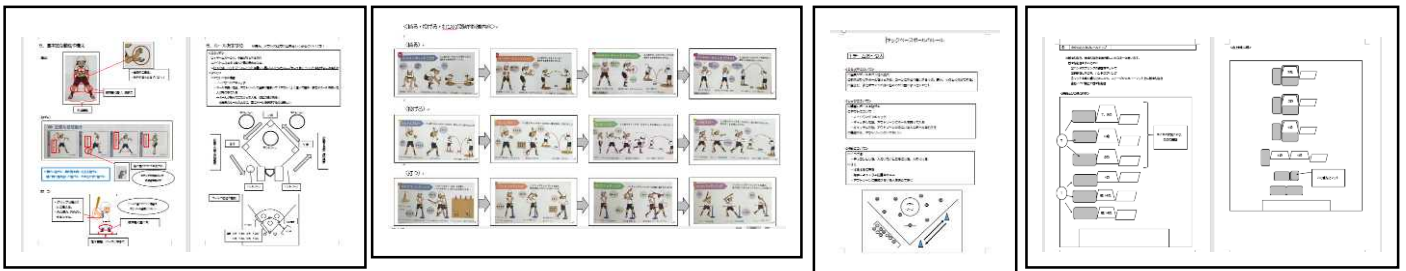
◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ・運動への愛好度を高める、苦手としている子どもの意識改革
- ・体育授業に取り組む指導者の意識の向上、指導方法の改革
- ・全小学校への訪問による他校との連携・情報共有
- ・体育環境の充実

動きやポイントの可視化, 掲示の工夫



単元計画・指導方法の紹介, 提案



【 実践事例 】

1. 指導法の工夫 (教材・場の工夫等)

〈事例Ⅰ〉

- 陸上運動 (リレー)
 - ・ 1チーム 5～6人 (50m走の記録を参考に編成)
 - ・ 基準タイムを決め, 目標タイムとする。(学年の50m平均タイムを参考)
 - ・ 運動場のトラックを50mずつ分割 (場の設定→コーンにより1走～5または6走を位置づける)
 - ・ バトンパス練習後, 記録測定 (指導計画に位置づけ)
 - ・ ふり返りカードにより記録の変化の確認。(タイム更新に向けて意欲付け)
 - ・ ICTによるバトンパス等の確認

〈事例Ⅱ〉

- 陸上運動 (ハードル走)
 - ・ 学び合い, 教え合い学習「リズム (3歩または5歩を基本), ふみ切り位置と着地位置, 姿勢 (上体の前傾)」を中心に見合う (ペア学習)
 - ・ 4コース設定 (インターバル5m, 5.5m, 6m, 6.5mを設定)
 - ・ ハードルの工夫 (1コースのみ, ゴムひもを使用)

〈事例Ⅲ〉

- 器械運動 (とび箱運動 マット運動)
 - ・ 高さの異なる場を設定し, 自分で選択し練習する。(とび箱)
 - ・ 技の組み合わせ練習や自分の課題とする基本の技等の練習コースを設定し取り組む。(マット)
 - ・ ICTの活用 → ふみ切り, 着手, 着地の確認 (とび箱)
技の組み合わせ, 技と技のつなぎ等の確認 (マット)

2. 授業のパターン化 (特に, 中・高学年の取り組みの中で)

- ・ サーキットトレーニング → 準備運動 → 補助運動等, 授業の流れを伝えることで, 児童が主体的に取り組むようになっている。
- ・ 児童が授業の流れを把握し, 見通しをもって取り組むことにより, 運動量の確保と自主性が育つように進めている。
- ・ ボール運動では, 班 (チーム) で進めることにより, 班 (チーム) の意識が高まり, 意欲的に取り組む姿が見られるようになってきている。